

まちのカルチャーライフ②

ピアノの旋律に 思いをのせて

Koji TANAKA

田中紘二さん(48歳)



「(ア)に来たのは昭和四十九年です。から、かれこれ二十年近くになります。自然環境も良いこの街が気に入っています」

田中先生は練習室のソファに腰掛け、香芝の魅力を語ってくれました。練習室は一台のピアノが窓を背にして並べられ、白い壁面には友人の製作になるという添作品が飾られていきました。シンプル

な練習室には過剰なものがないで音楽に打ち込めるというような雰囲気が漂っていました。大きく取られた窓からは緑があふれるような景観が眺められます。

「芸術と自然は関係があると思います。やはり作曲などの創作活動には自然環境も大事でしあうね。精神的にもリラックスしてからでないと、私も練習に打ち込めませ

んね。この窓からの景色もいいでしょ」

田中紘二さんは大阪教育大学の教授。教育課程の学生にピアノを教え、田尻の自宅では練習する日々を過ごしているとか。田中先生が音楽への道を歩もうと考えられたのは中学の時。それからひたすらピアノとの格闘が始まり、大学を卒業後、数々のリサイタルや

コンサートに出演して腕ならぬ指を磨き、また大阪フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、東京ソリストなどと共演していました。また伴奏者としても知られているとか。

「香芝ではおかげさまで、ふたかみ文化センターの開館記念でピアノ開きコンサートをやらせていただきました。とても良いホールで聞いてくださる皆さんも喜んでいました。私はソロでショパンのスケルツオ第二番、トリオオ第一番を弾かせていただきました。機会があったらまたコンサートを開きたいですね」

そういうって、ピアノに向かわれ、おもむろに弾き始めるごとに部屋の中に音が満ちてくるのが感じられます。指先が流れるように動き、体が歌っている、そんな演奏でした。決して音楽は指先の芸術ではなく、人間の体が生み出すものだということが、こうしてまじかにいると良く分かります。

「私自身はドイツ古典派が好きです。ベートーベンなどは偉大な山脈みたいなものです。音楽のすごさを思い知られます。これからも良い音楽を求めて、もうともと勉強していきたいと思っています」